2003年オリジナル作曲コンテスト　結果発表

　今回は応募作品が非常に多かったことに加え、審査の難しいオリジナル作品でしたので、結果が出るまでに大変時間がかかってしまいました。申し訳ございません。
　応募下さった皆さん本当にありがとうございました。
　そして、入選された皆さんおめでとうございます。
　8月下旬をメドにZOORASIAN BRASS Web shopにて販売を開始いたします。
　残念ながら、惜しくも入選に至らなかった皆さんも、次回の『オリジナル作曲コンテスト』に再度挑戦してください。

(2003/07/29)

金管五重奏曲　作曲：門脇治

試聴は→こちら

【コメントとプロフィール】
　甚だしく転調しますが、曲の構成はオーソドックスなので、和声的なところ、対位法的なところそれぞれ、基本的なアンサンブルをいていただければ良いと思います。練習番号Ｆは、特にソロの部分をルバートで自由に演奏してください。
　もともとは、中学生の６重奏のために考えたものを、手直ししたものですので、中学生でも演奏できると思います。
2003年７月　門脇 治
●門脇 治
1964年、塩竈市生まれ。宮城教育大学卒業、同大学院終了。作曲を本間雅夫、吉川和夫の両氏に指事。1999年平成10年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。主な作品、吹奏楽のための「Toward」(第６回"饗宴"でも演奏された)、「天体より降る水」(Pf.)、「前奏曲と無窮動」(Cl.,Pf.)、「Range第２番」(Cl.,Computer)、「詩人の目に映る空」(朗読と室内楽)、「edge」(tsx.,orch.)、「宇宙に漂う塵がやがて星となるように」(Cb.,Mba.) など。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、日本電子音楽協会、グループINTE各会員。現在宮城県仙台西高等学校教諭。

組曲『５人の賛歌』ファンファーレ風～ファンタジック～エレジー～ギャロップ
作曲：坂本真人

試聴は→こちら

【コメントとプロフィール】
生まれて初めて公の場で自分の作品が評価されたことに、天にも昇らんばかりの気持ちです。　この曲の２、４曲目は相模原ブラスアンサンブルのために作曲したものを最近手直ししたもの、１、３曲目は今年の５月に作曲しました。当時の「５人の讃歌」の１，３曲目は超現代曲で、楽器を吹くというより、たたいたりこすったりする場面が多かったので、お蔵入りとなってます。
　他のパートに比べて、チューバの音域が広いことが曲を難しくしているかもしれません。東金５やカナディアンブラスの影響大ですね（笑）
　しっかり練習しても飽きの来ない曲だと自負していますが果たして？？？
　次回作は楽器の音域やリズムをもう少し簡単になるよう、考えます。
2003年７月　坂本真人
●坂本真人
日大芸術学部音楽学科トロンボーン専攻卒業中学校の音楽教師を２０年勤める。吹奏楽部顧問として、吹奏楽コンクール関東大会に３回、アンサンブルコンテスト全国大会に１回出場元相模原ブラスアンサンブル代表・元相模原市民吹奏楽団常任指揮者
==========
　組曲「５人の賛歌」のネーミングは、５人の各パートが、できるだけ平等においしいメロディ部分を持ち、それぞれの主役としての重要性を存分に味わい、互いを賛美し合うといった意味合いでつけました。となれば当然、演奏場厳しい音域に到達するパートもあるわけであって、ここを果敢に乗り越え、大汗かいた爽快な達成感をお互いに味わっていただくことが、作曲家にとって、また演奏者にとって大きな喜びになると確信します。
　もちろんこれら４曲は単独でも演奏可能ですし、組み合わせ方によっては、アンサンブルコンテストのプログラムにも載せられるのではと思います。
「ファンファーレ風」

　最初倍テンポで今の１小節を２小節分として作ろうと思いましたが、練習時のカウントの取り方や、指導される方が150以上の早さで体を動かしたり指揮される姿を想像すると、曲のイメージから考えて少し滑稽であるなと思い、然るにすべての音符を半分の長さで作り直したため、楽譜上に黒い川が流れているようになってしまいました。
　最初のHornのテーマは全曲を支配します。朗々と始まるこのテーマはすぐに他のパートの全く違ったテンポの中にいったん消え去り、Trpの掛け合いのメロディにイメージは残りますが、形として再び現れるのはBからとなります。冒頭やEからは決して急がず、５人の演奏者の気持ちがそろって(リレー競技のバトンのように)音の受け渡しを大事にしてください。
「ファンタジック」

　あっさりとした単調なTrpの掛け合いで始まりますが、いざ演奏してみると、これがなかなか難しいのです。テンポの変化もないので、２人で１本に聞こえるよう、楽譜にない強弱などを工夫してみましょう。Bの部分はややレガートをかけてみると前後との対比が生まれておもしろいかもしれません。どのパートにもメロディと同じリズムが多くでてきます。また、全曲を通してのアクセントは、最後付近の２音だけという点に注意しましょう。その他何もついていない16分音符を、メロディを生かしながらいかに演奏するかが問われる曲でもあります。
「エレジー」

　冒頭および再現部FのTrbのスキップのリズムは、実は上から下へのグリッサンドで演奏してほしいのです。この付点のリズムはそれができるような音域で作ってあります。メロディの裏に、もの悲しさ、気だるさを表現できたらと思ったからなのですが、演奏して変でしたらやめてくださって結構です。AのTubaのHigh Cですが、オクターブ下げて演奏されてもかまいません。また、DからEにかけて大変苦しい掛け合いのオブリガートになる２本のTrpですが、このリズムなくしてメロディは生きてこないのです。一心同体の気持ちで１本として聞こえるように演奏しましょう。曲は深いため息をついた後、穏やかな気持ちで終わりを迎えます。
「ギャロップ」

　メロディよりも伴奏型が大変難しくなってしまいました。16分音符からリズムを刻むパートは、特にアタックがきつくなりすぎないように気をつけましょう。メロディの動きや掛け合いは意外と単調ですから、演奏者をそれを逆手にとって、自由な発想で音楽表現されると、曲がさらに生きてくるとおもいます。

【審査員】
　中川幸太郎　作曲家
　中川　喜弘　Trumpet奏者・アレンジャー
　岡田　友弘　指揮者　ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS
　近藤　陽一　Tuba奏者　ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

【総評】
今回は審査に時間がかかりました。時間を要した最大の要因は、応募数が多かった割に、音楽的に『これ』と言った、印象に残る作品が少なく、borderlineに沢山の作品が並んでしまったため、最終的には試奏による審査を行わざるを得なかったことにあります。
　実演では、MIDIの印象と大きく異なる結果となりました。
　選出された、門脇さんの作品は、MIDIではあまりパッとしませんが、実際の演奏では非常に演奏しやすく、プレーヤーも楽しみながら演奏できるので、音楽も生きてきます。反対に坂本さんの作品はMIDIの方がウケがよいかもしれません。少し、無駄に難しいところがあるように思いますのと、コンサートの演目として、アマチュアには演奏が少し厳しいように思えました。しかしながら、過去に例のない大作に、審査員一同感心しておりました。　他の作品も音楽的には素晴らしいものが沢山ありましたが、完成度の点で入選に至りませんでした。
　全体の傾向として、金管楽器の特性のうち、華やかさ、煌びやかさといった、イメージは良く表現されているのですが、息継ぎ、唇の筋肉疲労、音程の難しさ、休みの作り方、高音低音の限界音の使いどころなど、実演面での特性がほとんど考慮されていないため、実演に不向きな作品が多数応募されています。MIDIではこれらがほとんど問題にならないので、無視されがちですが、実はここが選出か否かの大きな分かれ目でもあります。
　また、今回は『オリジナル』と言うこともあり、作曲家の思い入れが強すぎる作品が多かったように思います。もちろん思い入れは強くてもかまわないのですが、多くの場合、それが上手に表現できずに、結果として独りよがりの作品になってしまいます。
　理由は作曲家によってそれぞれあるのでしょうが、結果的に演奏されない楽曲では出版するからには意味がありません。もう少し冷静かつ客観的な視点が欲しいと思いました。